



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレター 第521号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第521号. 京大東アジアセンターニューズレター 2014, 521

ISSUE DATE:

2014-06-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/187742>

RIGHT:

目次

- 中国経済研究会予定変更のお知らせ
- アジア経済発展論研究会のお知らせ
- カンボジア 5/20:キリングフィールド(ポル・ポト犠牲者)慰霊祭
- 上海街角インタビュー ③③
- 【中国経済最新統計】

「中国経済研究会」 予定変更のお知らせ

本年度第 2 回目の中国経済研究会は、香港でご活躍中の気鋭の経済学者張軼凡氏の来日に合わせて、急遽予定を変更し、下記の要領で開催することになりました。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2014年6月17日(火) 16:30-18:00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下1階みずほホール

報告者： 張軼凡（香港嶺南大学経済学部准教授）

テーマ： WTO Accession and Performance of Chinese Manufacturing Firms

使用言語： 英語

講師紹介：1994年に中国人民大学経済学院で学部卒業、1997年に同学院で修士学位、2005年にアメリカピッツバーグ大学より博士号を取得。イェール大学でポストドクを務めた後、2006年に香港嶺南大学経済学部へ赴任、2012年から准教授に就任。研究分野は中国経済論、国際経済学、産業組織論など。

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行います。2014年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：~~4月16日(火)~~、5月20日(火)、**6月17日(火)**、7月22日(火)

後期：10月21日(火)、11月18日(火)、12月16(火)、1月20日(火)

(この件に関するお問い合わせは劉徳強(liu@econ.kyoto-u.ac.jp)までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。)

アジア経済発展論研究会のお知らせ

今年度のアジア経済発展論研究会を開始致します。今年度は第1木曜日を基本として開催致します。早速ですが、6月5日に以下の要領で第1回目の研究会を開催致します。日が迫ってからのご連絡で恐縮ですが、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

なお、今回は報告者のお一人のサポートのために手話通訳がつく予定です。

研究会 website

<http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/~fmieno/Asia%20Economic%20Seminar.html>

アジア経済発展論研究会

■6月研究会

日時：2014年6月5日(木) 17:00-18:30

場所：病院西地区(薬学部構内) 東南アジア研究所 稲盛財団記念館
3F中会議室(下記地図35番のビル南はし)

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_m.htm

[吉田キャンパスではないのでご注意ください!!]

報告者：森 壮也 氏 (アジア経済研究所)

山形 辰史 氏 (アジア経済研究所)

報告論題：

フィリピン障害者の生計と彼らを取り巻く社会：

ルソン島の都市/農村部データの世帯データによる経済分析

参考

<http://www.keisoshobo.co.jp/book/b107665.html>

http://www.fasid.or.jp/award_detail/5_index_detail.shtml#award-17-1

言語：日本語

研究会幹事：

東南アジア研究所 三重野 mieno-lab@cseas.kyoto-u.ac.jp 075-753-7311

経済学研究科 矢野

経済学研究科 高野

カンボジア 5/20:キリングフィールド(ポル・ポト犠牲者)慰霊祭

28. MAY. 14

中小企業家同友会アジア情報センター代表

東アジアセンター外部研究員(協力会副会長)

小島正憲

《 チュンエク大量虐殺センター 》

5/20、毎年、カンボジアでは国内各地のキリングフィールドで、ポル・ポト時代に虐殺された人々を慰霊する式典が催される。ただしこの日は国家の祝日には定められておらず、カンボジア国民でも知らない人が多い。ましてや外国人で知っている人は少ない。昨年、私はスヴァイリエン州の片田舎のキリングフィールド慰霊祭に参加し、現場をつぶさに観察し、それを読者各位に発信した。今年は、カンボジア最大のキリングフィールドであるプノンペン郊外の「チュンエク大量虐殺センター」の慰霊祭に参加してみた。以下はその報告である。なお、キリングフィールドはカンボジア全土に、300余箇所、存在している。

プノンペンから車で30分ほど南下した場所に、「チュンエク大量虐殺センター」がある。当日は平日だったが、道路工事や出勤ラッシュに巻き込まれ、現地に着くまでに1時間ほどかかった。午前7時の式典開始ということだったので、それに間に合わないかと思っただけで焦ったが、人民党関係者の到着が遅れているという理由で、開始が8時に伸びており、なんとか間に合った。式典会場にはすでに300人ほどの僧侶が揃っていたが、一般人はその時刻になっても三々五々集まってくるような状況だった。そこには特別の看板や飾り物があるわけではなく、横断幕があるだけであり、中央の慰霊塔前にも花輪が3個供えられているだけで質素な感じだった。私はそこに、持ってきた花輪を供え、丁寧に合掌礼拝した。

私はここがカンボジア最大のキリングフィールドなので、慰霊祭はかなりの規模で催されるのだろうと想像していたが、それは昨年の片田舎の慰霊祭と比べて、さほど盛大なものではなかった。式典終了時でも、一般の参加者は2000人ほどだった。





供養が始まり、慰霊塔前で高僧の読経の中、まず人民党幹部の礼拝が行われた。私は通訳に、「今、唱えられているお経を訳してください」と頼んだ。ところが通訳からは意外にも、「お経はパーリ語なので、まったくわかりません」との答えが返ってきた。すかさず私が、「すると、この場に集まっている普通の人たちは、だれもこのお経がわかっていないということですか」と問い返すと、彼は素直に「そうです」と答えた。考えてみれば、日本でも葬式や法要で僧侶の唱える漢語のお経を理解している人はほとんどいない。ただ有り難そうに頭(こうべ)を垂れ合掌しているだけである。私はそのように考え、「この場に参加しているカンボジア人が、お経の内容を理解していないことは、さして驚くほどのことではない」と自分を納得させた。それでも私は、参加者がその読経の音(ね)のみに心底から陶醉しているような様子を見て、大乘・小乗の違いを超越した日本人とカンボジア人の共通現象に大きな興味を抱いた。僧侶の読経には、集団催眠力があるのだろうか。ただしカンボジアの僧侶の読経は、日本の僧侶の読経とは違い、甲高いものであり、私には雑音にしか聞こえなかった。余談だが、チベット仏教のラマ僧の読経は、ダミ声に

近い低さであり、数十名のラマ僧がいつせいに読経すると、それは地響きのように聞こえる。その後、高僧は特別席に、人民党幹部はその脇に着座した。

次に第2幕として、慰霊塔前の広場で、ポル・ポト時代の歴史の朗読が行われた。まず女性朗読者が、ポル・ポト時代の惨劇の様子を、哀調を帯びた声音で切々と語った。次ぎに男性朗読者が、「ポル・ポト時代の悲劇を再び繰り返してはならない。そのために人民党と共に前進しよう」と声高に語った。続いて青年・女性・チャム族代表の発言があり、人民党への感謝の言葉が繰り返し語られた。その中で私が注目したのは、チャム族代表の、「現在進行中の国際裁判は第2ステージで終わりにしよう。カンボジア国民は団結し、社会を安定させ、経済を発展させよう」という発言だった。



第3幕は恒例のポル・ポトの悪業の再現劇だった。それはさすがにスヴァイリエン州のものとは違い、登場人物も多く、煙や射撃音などもあり、本格的な演劇だった。しかしながら参加していた人たちの間から、ときおり笑いが漏れたことに、私は驚いた。もちろん涙を流している人もいたが、スヴァイリエン州のときと比べると、はるかにその数は少なかった。この日の参加者が若者中心であり、当時のことを体験している40代以降の人たちが少なかったことにもよるのだろうが、私には異様に感じられた。

この演劇は、筋書通り、人民党の旗が打ち振られ、人民党幹部の写真が掲げられ、兵士や人民が「解放万歳」を叫ぶ長いシーンで終わった。これらを見終えて私は、「結局、この演劇も人民党の宣伝のために使われたわけで、カンボジア人民にとっては見飽きたものであり、しらけていても当然なのかもしれない。真剣に見入っているのは、現地の事情を中途半端に知っている外国人だけなのかもしれない」と思った。



第4幕として、人民党幹部の高僧への答礼儀式が行われた。それは椅子に腰かけた高僧たちの前に、人民党幹部がひざまずき、たくさんの供物とともに、合掌礼拝するというものであった。私はこの光景を間近に見て、「人民党が仏教を政治利用しているのではないか。カンボジア人民はほとんどが仏教を信じている。人民党はそれを利用し、自らの政権基盤を固めようとしている」と感じた。そのとき、高僧たちはお経を甲高い声で唱えながら、白い花びらを人民党幹部の頭上に撒き散らしていた。このお経もパーリ語で、通訳にもわからないということだった。もちろん人民党幹部にもちんぷんかんぷんなものにちがいない。それでも人民党幹部たちは神妙な顔で、高僧たちに頭(こうべ)を垂れていた。私が通訳に、この高僧たちの出身寺院を聞いてみると、「人民党と縁の深い寺院

だろう」という答えが返ってきた。ポル・ポト時代には寺院はすべて破壊され、経典は焼き尽くされ、僧侶もそのほとんどが殺されたり、還俗させられたりした。その後のカンボジア仏教の再生の過程について、詳しく研究してみることが必要だと思う。

慰霊祭はこの答礼儀式で終了した。すると参列していた300名ほどの僧侶たちの中から、そそくさと列の後部へ移

動するものが少なからず居たので、私は彼らを目で追った。彼らは木陰に入り、さっそくタバコを吸い始めた。そして一服すると鉢を抱え、列を整え、一般参加者の中に托鉢に入って行った。その後ろには、大きな袋をもった若者たちがぞろぞろと付き従っていたので、不思議に思って聞いてみると、その若者たちは、僧侶が托鉢でもらった物品を袋に入れて運ぶ役だという。

カンボジア最大のキリングフィールド慰霊祭では、ほとんど外国人メディアの姿は見かけなかった。その後、「チュンエック大量虐殺センター」は、何ともなかったように一般の日に戻った。9時半ごろ、外国人観光客が来て、たくさんの慰霊祭参加者にビックリしていた。カンボジアでも、ボル・ポト時代はすでに風化し始めている。

以上

上海街角インタビュー ③③

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集団董事（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

“中国の学校にはクラブ活動がない”は本当か？

日本のアニメと漫画が大好きな、上海に住む友人の娘さん（高校生）から、「日本には本当に“けいおん”や“SLAM DUNK”のようなクラブ活動があるのか」と聞かれた。放課後に学校で好きなことが出来るのが信じられないようで、彼女は中学の時も今も放課後は勉強漬けだと言っていた。中国の学校にはクラブ活動は無いのだろうか？

1. 40歳代前半の男子 子供は中3の女子

うちの娘の学校ですが、クラブはいろいろありますよ。運動系は男子がバスケット部、女子がバレー部。陸上部もあります。文化系は書道部、音楽部（合唱、器楽）、読書部、映画鑑賞部、天文学部、自然学部、漫画部（絵を描く）、演劇部などです。うちの娘も中2までは合唱部に入っていましたが、3年になって勉強が忙しくなって退部しました。大部分の子供も中3になると時間が無くなるのでやめてしまいます。学校も勉強が良くできる子、才能がある子以外には活動を勧めません。うちの娘は、学校から帰るとすぐ宿題を済ませ、18時から23時まで高校受験勉強です。中国は学歴社会だから、有名大学に入れ国有企業が官庁へ就職させるつもりです。

2. 20歳代後半の女性

私の卒業した高校には学校が作ったいろいろな同好会がありましたが、同好会に参加すると勉強する時間がなくなるので、大学に進学したい人は誰も入りませんでした。私も上海師範大学を目指していたので入りませんでした。

3. 50歳代前半の男性 子供は高1の男子

クラブ活動は中学、高校にもありますが、活動している人は少ないです。私などが中学校の時代は運動用具も乏しく、バスケットボールが学校に2～3個しかありませんでした。ほかの用具も同じです。クラブ活動などという発想はありませんでした。今もクラブ活動が低調な理由は二つあります。一つは日本以上の受験戦争。もう一つは、一人っ子であるため、学校も生徒に何か事故があれば責任重大です。早く学校から家に帰って欲しいです。

それでも、各学校には必ず何らかのクラブがあります。例えばバスケットボール部、音楽部、絵画部など授業以外の活動として学校が募集します。市あるいは区も必ず、毎年、大会をやります。学校によって強みが違いますが、学校の伝統になります。但し、これらのクラブに誰でも参加できるわけではありません。これらのクラブ活動に適した素質をもつ生徒が最優先です。次に成績優秀でクラブ活動をしなくても成績の落ちない生徒です。逆に言う学校からの指名が基本です。うちの子供の学校ではクラブに参加しているのは2割くらいでしょう。うちの子は参加していません。

4. 20歳代前半の女子大生

中学、高校ともクラブはありましたが、参加しませんでした。学校から戻ればすぐ勉強塾でしたから

クラブ活動をする時間はありません。私の高校は進学する子が殆どでしたから、友達も皆、終業後即帰宅でした。一部、先生から声をかけられて運動部や音楽部に入った子もいますが、大学はそれらの専門学校へ行ったようです。

5. 30歳代後半の女性 子供は小六男子

私の時代には中学校も高校もクラブはありましたが、普通の子は入らなかったです。うちの子には中学校でもクラブ活動はさせません。時間の無駄です。幼稚園から絵を習っていますが、中学に入っても本人が希望すれば続けさせます。でも、勉強が最優先です。

6. 中学3年の女子

幼稚園からピアノを習っていたけど、中2で止めました。勉強で習いに行く時間がなくなったからです。今でもストレス解消に時々弾くけど、大学に入ったらまた習いに行きたいと思っています。それまでは勉強優先、仕方がないです。学校にはいろいろなクラブがありますが、先生は勧めないし、私も興味がありません。

中国の学校にはクラブ活動はないと思っていたが、話を聞いてみると私の認識不足で、殆どの中学、高校には何らかのクラブがあるようだ。ただ、誰でも気軽に入れるものではなく、学校側の選別が働くようである。

中国にもバスケットやサッカー、ピンポン（中国では卓球は玉突きのこと）などプロチームがあるが、プロチームの人材やオリンピックに出場するような選手は、小学校から特殊養成学校でエリートとして育てられ、何回かの選抜試験を経て、国家級の養成所でオリンピック選手に育てられるか、プロチームに採用される。学校のクラブ活動から一流選手になることはまずない。（もし、普通の学校で才能が認められれば、その段階で国家級専門学校へ引き抜かれる）

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増 加 率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	1.9	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2					1549	20.3	24.9				
10月		13.2	17.2	5.5	34.1	170	15.8	29.1	-0.6	8.7	16.7	14.1
11月		12.4	17.3	4.2	21.4	145	13.8	22.6	-12.9	-9.8	16.2	14.0
12月	8.9	12.8	18.1	4.1	5.7	165	13.3	12.1	-15.4	-12.7	17.3	14.3
2012年						2303	7.9	4.3				
1月				4.5	25.3	273	-0.5	-15.0	4.6	10.8	16.6	14.8
2月		21.3		3.2	—	-315	18.3	40.3	38.7	-0.9	17.8	15.0
3月	8.1	11.9	15.2	3.6	21.1	53	8.8	5.4	-6.5	-6.1	18.1	15.7
4月		9.3	14.1	3.4	19.2	184	4.9	0.4	-26.1	-0.7	17.5	15.4
5月		9.6	13.8	3.0	21.0	187	15.3	12.7	-6.1	0.0	17.9	15.7
6月	7.6	9.5	13.7	2.2	21.8	317	11.3	6.3	-16.3	-6.9	18.5	16.0
7月		9.2	13.1	1.8	20.6	251	1.0	5.7	-7.8	-8.6	18.9	16.0
8月		8.9	13.2	2.0	19.4	267	2.7	-2.7	-12.7	-1.4	18.4	16.1
9月	7.4	9.2	14.2	1.9	23.1	277	9.8	2.3	-6.4	-6.8	19.8	16.2
10月		9.6	14.5	1.7	22.4	320	11.5	2.2	1.8	-0.2	14.6	15.9
11月		10.1	14.9	2.0	20.0	196	2.8	-0.1	-8.7	-5.4	14.5	15.7
12月	7.9	10.3	15.2	2.5	18.8	316	14.0	6.0	-7.8	-4.5	14.4	15.0
2013年												
1月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1

3月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014年												
1月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家統計局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。